

1-2-13-1 荏野文庫土蔵

〈県指定〉昭和31年2月24日

〈所有者〉荏名神社

〈所在地〉江名子町1290番地

〈時代〉弘化2年(1845)

〈員数〉1棟

土蔵(1棟) 桁行3.47m、梁間3.47m、カラー鉄板葺、2階建

国学者田中大秀の文庫蔵で、荏名神社の境内にあり、火災と鼠害に備え池の中に建てられている。天保15年(1844)6月29日 鋦始。京都神楽が岡の土を運び、飛騨国内各社の注連縄を集めて苧(つた、すたともいう)に使ったと伝えられる。上階の前面に明り窓をつけ、窓の上に大秀自ら「荏野文庫 弘化乙巳秋」としたためた木額が掲げてあった。

階下の正面に大秀の木像を安置する。木像は高さ45cm、膝幅36cmの坐像で左の背銘がある。

荏名神社再興齋主六十三翁田中大秀之像

天保十年己亥五月 京都田中松慶刻

文庫内の蔵書は、大秀没後高弟山崎弘泰の花里文庫に移され、大正元年(1912)売りに出たのを吉島休兵衛ほか5氏の援助で高山町教育会が購入した。現在、519部1,516冊が県の文化財(典籍)に指定され、飛騨高山まちの博物館で収蔵している。